

討 言議 土木學會誌 第三卷第一號 大正六年二月

内務省直轄各川計畫概要

(第二卷第六號所載)

工學博士小柴保人

本誌第二卷第六號内務省直轄各川計畫概要ヲ讀ミ生ハ工學士宮川清君ノ其報告ノ勞ヲ執ラレタルヲ深謝スルト共ニ尙ホ法線(高水)規定ニ付キ御説明ヲ煩ハシタク願フ
法線ノ規定ハ河川改修計畫ノ第一義タルハ言フマテモノナク精擇其當ヲ得ハ惠福ヲ將來ニ遺ス至
大ナルモノアラン而シテ之ヲ簡易ニ言説セんニ左ノ二者ヲ出テサルヘシ

今假リニ其一ヲ狭法線(なるるゝげーぢ)其二ヲ廣法線(ぶろーどげーぢ)ト名ク狭法線ハ幅員ヲ成ル
可ク狹ク廣法線ハ成ル可ク廣ク採ルモノトス斯クシテ前者ニ於テハ全然遊水ノ意義ヲ沒却シ高
水位昇降(れーんぢあふたいど)ハ後者ニ於ケルヨリモ増大トナル今雙方得失ノ主ナルモノヲ舉ク
レハ狹法線ニ在ツテハ廣法線ノ場合ト對照スルニ土砂沈澱ノ量ヲ減少ス是レ將來幾十百年ノ後
繰返サルヘキ疏通工事ノ時期ヲ遼遠ナラシム川敷ニ要スル潰地ヲ節約ス等ノ利益アリ而シテ其
不利ノ點ハ堤防ヲ高大ニナスノ必要ヲ生シ河川工事ノ維持修繕ヲ困難ナラシメ洪水ノ際沿岸土
地ノ排水ニ不利ヲ來タス等ナリトス河川各其狀況ニ特徵アリ沿川土地モ亦其形勢ヲ異ニス故ニ
一法ヲ以テ之ヲ律スヘカラサルヤ明カナリ殊ニ其法線ヲ決擇スルハ實ニ至難ノ業ニ屬スルヤ必

186

セリ
叙上ノ見解ヨリシテ直轄各河川ノ法線規定ニ關スル深奥ナル方針ノ一端タモ御明示アラハ斯界
ヲ潤ホスコト無邊ナリト生確信不疑(完)